

パネラー

宍粟市社協地域福祉

推進計画策定委員

助光 和雄さん(山崎)



○これ以上の過疎化を防ぐために、各家庭の後継者を都会から宍粟に戻すことが必要である。

○隣近所が仲良く声をかけあい、助け合って生きる社会をつくらう。

○自治会に設置されている福祉連絡会の活動を活性化することで、地域でのつながりを強くすることができ

宍粟市社協理事

段林 繁さん(一宮)



○天役などが減り、地域の身近な話を聞くことが少なくなった。ふれあい喫茶がその代わりの交流の場となっている。

○家族構成が変わってきた今、昔あった「向こう三軒両隣」の考え方を思いだそう。地域での孤立を生まないために、「近所同士でのボランティア活動を進めよう」。

宍粟市社協

地域福祉推進計画

策定委員会副委員長

小椋清之助さん(波賀)



○公共交通が路線バスだけの宍粟市では、高齢者や障がいを持つ人の通院や買い物など、これからいっそうきめ細かな移動手段の確保が必要になる。

○地域の中で支援が必要であるのに遠慮する人と、どのようにつながりを持つかが課題である。

○元気な老人会組織を活用して、地域をよくする取組を進めよう。

宍粟市社協副会長

堂場政彦さん(千種)



○合理化と称して昔からの地域での集まり(お大師講など)を少なくしたこと、話し合う機会が減り、逆に地域の取り組みがなかなか進まなくなっている。

○地域で楽しく元気に過ごすための会をつくるなど、みんなが集まる機会を増やすことが大切。

コーディネーター

藤井博志准教授のまとめ

○地域の基盤づくりと地域福祉計画は一体である。コミュニティションを取りつらい人も集まれる工夫をしよう。

○福祉連絡会を「助け合い」「支え合い」の中心として、地域づくりの課題や夢など何でも話し合える場にしよう。

○少々おせっかいでも、お互いが関わりあえる文化が必要。地域に役に立た

ない人材はいない。地域の力をくみつくす仕組みづくりをすすめよう。

これらの議論をへて、最後に「第3回宍粟市地域福祉のつどい宣言(左に記載)」が多数の拍手で採択されました。参加いただいたみなさん、お手伝いいただいた宍粟市話サークル連絡会と要約筆記ボランティア、OHPしそうのみなさん、ありがとうございました。

第3回宍粟市地域福祉のつどい宣言

1. すべての自治会で小地域福祉活動の母体となる「福祉連絡会」をつくり、その活動を活性化させましょう。
2. 近隣のつながりをカタチあるものにするために、ささえあい、たすけあいの気持ちが生きる「ご近所ボランティア活動」をすすめましょう。
3. 地域福祉を進めるための財源である「善意銀行」「共同募金」「社協賛助会費」に協力し、寄付の文化を広めましょう。

平成23年2月20日

第3回宍粟市地域福祉のつどい